

日本財団 ボラセン THE NIPPON FOUNDATION VOLUNTEER CENTER

ANNUAL REPORT 2022

ボランティア活動 64回 のべ2,970名派遣

主な活動例



スポーツボランティア

マラソン、トライアスロン、デフスポーツなど各種スポーツ大会の運営をサポート。

- ・第1回東京・海の森トライアスロン2022
- ・ぼ活!チームで盛り上げよう!
京都マラソン 大会運営ボランティア



環境ボランティア

気軽に参加できるビーチクリーン活動や、植樹活動などにボランティアを派遣。

- ・海さくらゴミ拾い
- ・津波被災地に椿のじゅうたんを!
陸前高田で植樹ボランティア



文化イベントボランティア

コンサートなどの観客誘導の他に、言語サポートや手話対応を行う。

- ・ホッチポッチミュージックフェスティバル2022
- ・True Colors Festival THE CONCERT2022



海外ボランティア

ウクライナ周辺国への派遣や、バリ島でのボランティアスタディツアーを実施。

- ・The Volunteer Program for Ukraine
- ・地球の未来を考えよう SDGsのその先へ in バリ島



農業ボランティア

東日本大震災の被災地で栽培されるオリーブやフェイジョアの栽培をお手伝い。

- ・希望のオリーブの森 復興プロジェクト in ふくしま
- ・「幻のフルーツ」を収穫! 秋のふくしま農園ボランティア



災害ボランティア

地震、豪雨、台風の被害にあった3県にボランティアを派遣。

- ・福島県南相馬市
- ・新潟県関川村
- ・静岡県静岡市葵区

セミナー/イベント 76回 のべ10,923名参加

主なセミナー/イベント例



災害ボランティアセミナー

工具の使い方や被災者の方との接し方など、災害現場に必要な知識やスキルを学べるセミナー。

- ・災害ボランティア研修 ~入門編~
- ・災害ボランティア研修 ~エキスパート編~



英語セミナー

ボランティア現場で活用できる英語のフレーズが学べるセミナー。

- ・初心者のためのイングリッシュ・レッスン ~楽しく英語耳をつくる1時間~
- ・ボランティア現場で役立つ英語



手話セミナー

初心者から経験者まで、様々なレベルに合わせて楽しみながら手話を学ぶセミナー。

- ・教えて!いちろう先生「はじめての手話」
- ・教えて!いちろう先生 2nd stage 「みんなで話そう!手話スポーツバー」



ダイバーシティセミナー

様々なバックグラウンドの人と接するボランティア時に必要な、考え方やサポート方法を学ぶセミナー。

- ・60分で視野が広がる!?「障害とは?」
- ・私にもできる!サポート! ~聴覚障害編~

団体連携・ネットワーク ボランティアに関する大学連携

連携協定締結校 108校

連携事業数 15校 40事業

協定校などの
詳細はこちら



団体概要

公益財団法人日本財団ボランティアセンター
東京都港区虎ノ門1-11-2 日本財団第二ビル4階
TEL: 03-6206-1529
E-mail: info@volacen.jp
日本財団ボランティアセンター公式サイト
https://www.volacen.jp/



公開資料については、こちらでご確認いただけます。
https://www.volacen.jp/about/public/



VISION

私たちは、日本に新しい
ボランティアカルチャーをつくります。



日本財団ボランティアセンター 1年のあゆみ

2022年 4月

災害ボランティア派遣

2022年3月福島県沖地震で被災した福島県南相馬市へ16名の災害ボランティアを派遣。



2022年 6月

「東京2020大会ボランティアレガシーメールマガジン」を配信開始

東京2020大会のボランティアを大会のレガシーとして継承するため、ボランティア応募者を対象とした「東京2020大会ボランティアレガシーメールマガジン」を配信開始。

2022年 8月

ぼ活! 会員数が15,000人突破

災害ボランティア派遣

豪雨による土砂災害にあった新潟県関川村に災害ボランティア19名を派遣。



2022年 7月

東京2020大会開幕から1年にあわせて、大会1年後アンケート調査結果を発表

ボランティア経験者の約80%が多様性についての意識が向上し、大会後もボランティア活動をしている人も半数以上いることが明らかに。



2022年 10月

災害ボランティア派遣

台風15号で被災した静岡県静岡市葵区に32名の災害ボランティアを派遣。



2022年 5月

ウクライナ避難民支援活動「The Volunteer Program for Ukraine」スタート

10月までに全7回101名の日本人学生ボランティアをウクライナ周辺国へ派遣。



プラットフォームサイト「ぼ活!」



ボランティア活動とのマッチングやセミナー/イベント、そして仲間とのつながりを通じてより充実したボランティアライフをサポートするプラットフォームサイト。2022年3月31日現在で、22,476名が登録。



詳しくはこちら

カンファレンス&アワードセレモニー「Volunteer's Summit」を初開催

セレモニーの中では、ボランティア活動を通じて、多様性あふれる、優しい社会づくりに貢献したボランティアや団体をたたえる年間表彰「ぼ活! MARCH AWARD 2023」の表彰者を発表し、団体表彰2団体、特別表彰1団体、個人表彰117名が受賞した。



2023年 3月

大会初のボランティア運営をサポート「カーネクスト2023 WORLD BASEBALL CLASSIC™」

ぼ活! で募集したのべ960名のボランティアが、カーネクスト2023WORLD BASEBALL CLASSIC™東京プールや、強化試合で活動した。



2022年 9月

学生限定 特別プロジェクト「旅するボランティア」がスタート

旅の一環として、現地のイベント運営や農作業を手伝うことで、ボランティア活動に親しんでもらう学生対象のプログラム。第1弾は9月に、第2弾は2~3月に実施した。



2023年 1月

ぼ活! 会員数が20,000人突破

日本財団ボランティアセンターが後援したドキュメンタリー映画「ただいま、つなかん」が劇場公開



2023年 2月

未来を広げる、ボランティアの特別授業「ボ学」スタート



道徳や総合学習の授業の一環として、ボランティア経験者が講師を務め、自らのボランティア経験を交えながら、ボランティアの魅力や大切さを語り、その楽しさや社会的な意義を伝える中学生向け前授業。2022年度は7校、1,351名の生徒が受講した。





ふくらめ、ふくらめ、可能性。

ボランティア活動は、わたしたち自身と、わたしたちの未来の、あたらしい関係を紡ぐ活動です。
それは、時間や経験を提供するという奉仕行為だけにとどまりません。
あたらしい仲間に出会える機会であり、あたらしい価値観に触れる時間であり、
思いも寄らない好奇心に気づく瞬間であり、自分の可能性を見つけるきっかけになります。
ほ活!は、より充実したボランティアライフをサポートするためのプラットフォームサイトです。

大会初のボランティア活動「カーネスト2023 WORLD BASEBALL CLASSIC™」 東京、大阪、宮崎の3会場で、親子ボランティアを含むのべ960名が参加

2023年3月に開催された「2023 WORLD BASEBALL CLASSIC™」では、大会史上初めて、ボランティアが大会の運営をサポートしました。日本財団ボランティアセンターでは、ボランティア募集から当日の運営までサポートし、3月6日と7日に大阪府と宮崎県で開催された「カーネスト 2023 WORLD BASEBALL CLASSIC™ 強化試合」と、3月9日～16日に開催された「カーネスト 2023 WORLD BASEBALL CLASSIC™ 東京プール」の3会場で活動しました。



東京プールでは小学生以上18歳未満の子どもとその保護者が一緒に活動する「親子ボランティア」も活動し、入場ゲートでの案内、特典グッズの配布、場内コンコースでの案内など一般ボランティアと同様の活動を行いました。

活動実績

カーネスト 2023 WORLD BASEBALL CLASSIC™

強化試合	宮崎	2023年3月6～7日	のべ	48名
強化試合	大阪	2023年3月6～7日	のべ	106名
	東京プール	2023年3月9～16日	のべ	806名



参加者の声

岩見 嘉子さん (母 写真右)

「WBCのチケットがはずれてしまい、親子で残念だと話していた時にボランティアの募集を見つけて応募しました。試合を見ることはできなかったけど、みなさんのワクワク感を感じることができてよかったです」

岩見 杏樹さん (娘 写真左)

「大好きな野球の観客対応ができて嬉しかったです。意外と難しかったけれど、いい経験ができて楽しかったです」



上野 剛大さん

「ボランティア活動は、今回が初めてでしたが、野球が大好きで、応募してみました。観客の方たちが楽しそうにしている姿を見ると、やりがいを感じました。ぜひ、今後もボランティア活動を続けていきたいです」



ウクライナ避難民支援活動「The Volunteer Program for Ukraine」 101名の日本人学生ボランティアをウクライナ周辺国へ派遣

2022年2月24日に開始されたロシアによるウクライナへの軍事侵攻により、国外への避難を余儀なくされたウクライナ避難民を支援するため、日本財団と連携し、2022年5月～10月にかけて101名の日本人学生ボランティアをウクライナ周辺国へ派遣し、避難民一時滞在施設や避難民が多く利用する駅でウクライナ避難民支援活動を行いました。



活動実績

グループ名	派遣期間	活動国	人数
Group 1	2022年5月31日～6月17日	ポーランド	15名
Group 2	2022年6月13日～29日	ポーランド	15名
Group 3	2022年8月1日～17日	ポーランド	14名
Group 4	2022年8月16日～31日	ポーランド	15名
Group 5	2022年9月3日～17日	ポーランド、オーストリア	14名
Group 6	2022年9月17日～10月3日	ポーランド、オーストリア	14名
Group 7	2022年10月4日～20日	ポーランド、オーストリア	14名

参加者の声

内田 雅子さん

Group7 参加

「『困っている人を助けたい』という思いで、ボランティアに行ったはずなのに、むしろウクライナの方からもらうの方が多かった気がします。ありがとうございます。『わざわざ日本から来てくれてありがとう』という励まし・人の温かさがいつも私の原動力になって、もっと頑張りたいという気持ちになりました。」



指さし会話シート ウクライナ避難民支援ver.を制作

文章を指でさし示してやり取りをすることで意思疎通を図る「指さし会話シート」のウクライナ語版「指さし会話シート ほ活!×ゆびさし ウクライナ避難民支援ver.」を、株式会社ゆびさしの協力のもと制作しました。このシートは、「The Volunteer Program for Ukraine」に参加した学生ボランティアが制作に協力し、現地での活動経験を踏まえ、避難民などウクライナの方々とのコミュニケーションに役立つ語句をまとめ、実際の支援活動でも活用されました。

シートは、ほ活!サイトで無料ダウンロードが可能です



元Gakuvo学生ボランティアも出演 映画「ただいま、つなかん」が劇場公開 再び、若者が集う場所を目指して！ 11年ぶりに学生ボランティアが活動

日本財団ボランティアセンターでは、2011年の東日本大震災の発生以来、前身団体となる日本財団学生ボランティアセンター(Gakuvo)の時代から、2021年度末までに、のべ約12,000人の学生ボランティアを、宮城県を含む被災3県の各地に派遣してきました。

2023年2月、東日本大震災当時、学生ボランティアの拠点となった宮城県気仙沼市唐桑半島の民宿「唐桑御殿つなかん」を舞台に、東日本大震災後から現在までの10年以上に及ぶ物語をまとめたドキュメンタリー映画「ただいま、つなかん」が全国公開されました。日本財団ボランティアセンターでは、映画を後援し、劇場公開を記念して開催した特別試写会とトークショーでは、関係者の他に、ぼ活！で募集した現役学生も視聴しました。



また、3月には「つなかん」が再び若者の集まる場所となることを目指し、学生限定のボランティアプログラム「東日本大震災の被災地 気仙沼の「いま」～映画「ただいま、つなかん」から学ぶ5日間～」を実施。参加した8名の学生は、「つなかん」に宿泊しながら、施設整備のお手伝いや、移住した元学生ボランティアや地域の方々との交流から、気仙沼の「いま」を知り、災害とそこからの復興、そして地域創生について学びました。



参加者の声

五十嵐 円香さん

「気仙沼の人々からたくさんのお話を聞いて、多くのことを学ばせてもらいました。今までは、自分が住む「地域」に着目したことがありませんでしたが、これからも自分の地域で、災害や復興に関わる機会があったら、絶対に貢献したいなと思いました」



MESSAGE

菅野 一代さん（「唐桑御殿 つなかん」女将）

「久しぶりに学生ボランティアたちが活動する姿を見て「忘れかけていたものが戻ってきた」という気持ちになりました。ここからまた、何かにつながっていくように私も頑張ります。本当に、ありがとうございました」



自分らしさなんて変わっちゃうぐらいの旅をしよう。 学生限定 特別プロジェクト「旅するボランティア」



旅するボランティアは、学生のうちに旅やボランティアを通して、街や社会活動との新たな接点をつくることを目指すプロジェクトです。参加者は、学生限定。3泊4日の旅の中では、自然に触れたり、郷土料理を食べたり、その土地の魅力を満喫しながら、旅の途中でボランティア活動に参加します。初めて会った仲間と共に、地元の農家さんの収穫をお手伝いしたり、お祭りやイベントの運営をお手伝いしたり、地元の人々との交流をする中で、学生たちは、新しい自分と世界に出会います。



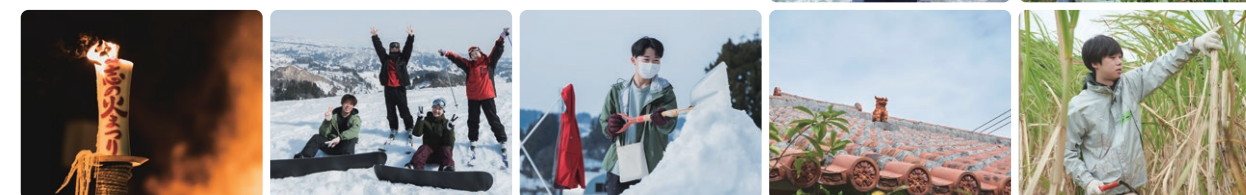
第1弾 2022年9月実施

行先	ボランティア活動	人数
北海道・稚内	わっかない平和マラソン運営サポート	10名参加
鹿児島県・与論島	ビーチクリーン・農作業手伝い	8名参加



第2弾 2023年2～3月実施

行先	ボランティア活動	人数
沖縄県・久米島	農作業手伝い	12名参加
新潟県・山古志	山古志火まつり運営サポート	10名参加



参加者の声

ゆりこ
第1弾 与論島 参加

「初めての場所で、初めて出会った仲間達と共に過ごした時間は、私にとってかけがえない宝物になりました。自分の知らないことを沢山知れた気がして嬉しかったのと同時に、もっと色々なことを体験してみたい!と思いました」



ゆうや
第2弾 山古志 参加

「初めてのボランティアでしたが、まるで学校行事と一緒に作り上げるような感覚でした。これまでの大学生活で人と対面して深く関わる機会があまりなかったので、こうしたプログラムを通じて、改めて自分と向き合う機会にもなりました。次は、災害支援などもっと他のボランティアにも参加してみたいと思います」

